F—27　主婦の生活意識と社会文化的背景
——実態調査による階層の比較——

東京学芸大　　田村　喜代

1.　家族関係の満足度如何は主婦の家庭生活管理能力に負うところが大きい。社会変動の影響で急速に変化しつつある家庭は，衣食住の物的要素をはじめ，生活様式，人間関係などその本質的な面にまで転換が及んでいる。しかし社会文化的背景によってこれらの現象は必ずしも同様でなく，主婦にとっては役割の問題，その存在意義を再確認することも必要である。本研究はこの前提として，主婦の生活意識に示された実態調査の結果から，主として社会階層の比較を中心に報告する。

2.　調査時期，昭和42年７月（Ｃ－９月）調査方法，質問紙(自計式)，調査対象，Ａ群——東京学芸大附属，小金井小，竹早中，世田谷高，Ｂ群——東京渋谷区立小，江戸川区立中，台東区都立高各一校宛，Ｃ群——奄美大島喜界島町立小中の子どもを通じて依頼した母親，対象数，Ａ464，Ｂ376，Ｃ162。

3.　単純集計と年令その他属性とのクロス集計によりＡＢ群間に余暇の過し方，その相手，置物，食事の日常具体行動，夫婦関係の状態生活水準満足度には顕著な有意差が示され，家事，労働観，対外活動，老後問題もかなり有意な傾向がある。しかし余暇の満足度，既製衣食品への受容度，日常生活の生きがいなどには差異がなく民主化，産業化，都市化の滲透している一断面が知見されたように思うが，年令，学歴などクロス集計の一部に現われた両群間の不一致傾向については，今後の研究で検討する。（サンプル数の関係でＣ群は参考程度としたい）